

P2Mトラック

PM-1 “プロジェクトX”に学ぶ
13:10 ～実践事例から見たリーダ像の探求～

パナソニックラーニングシステムズ株式会社
教育サービスグループ GM 海蔵 三郎(他7名)

【狙い】NHKの人気番組であった“プロジェクトX”に登場するキーマン(PM)の人間像に焦点を当てた分析である。成功要因としてのリーダ像には、どのようなコンピテンシーすなわち人間的特性が重要となるのか、プロジェクト特性に応じて、リーダ像に違いがあるのか等々を、P2M的にアプローチを試みた調査報告である。

【内容】①“プロジェクトX”題材選択の経過 ②分析指針と方向性 ③リーダ像の分析(P2Mコンピテンシーの分析) ④リーダチャート(リーダの評価) ⑤成功要因とリーダ像

【受講をお勧めしたい方】①プロジェクトマネジャー ②PMコンピテンシーにご興味のある方 ③日々PMを支えておられる家族の方々

【講師略歴】PM経歴：松下電器産業㈱のパナソニックシステムソリューション社にてSE/SIとして経験を積む

①生産管理、販売管理、財務管理等の業務系システム開発
 ②システム運用保守サービス事業企画 ③品質マネジメントシステム 保有資格：中小企業診断士、PMS

PM-2 P2M実践事例
14:30 ～社内情報システムの刷新プログラム～

新日鉄エンジニアリング株式会社
経営企画部 マネジャー 古屋 雅啓

当社の情報システムは、事業分野毎あるいは地域毎に個別に構築されてきた。そのため、同種類別のシステムが多数存在し、メンテナンスや最新IT技術の導入に大きな制約となっていた。従って、利用者からの機能改善要望の反映、あるいは経営戦略判断に必要な収益情報の迅速な提供、情報システムのコスト削減などに応えることが出来ず、取り組むべき課題として山積していた。

そこで、2003年度より中期システム計画として、ハード基盤のリフレッシュ、業務システムの統合といった情報システム刷新プログラムを実行した。

本講演では、P2Mによるマネジメント手法を適用して推進した本プログラムの実行事例について報告、考察する。

【講師略歴】1985年 新日本製鐵株式會社入社 エンジニアリング事業部門にて、FA工場、物流センター建設工事のPMを担当

2002年 情報システムの構築、AP開発のPMを担当
 2006年 新日鉄エンジニアリング株式会社に移籍 引き続き同社の情報システム構築、AP開発のPMを担当

PM-3 イノベーション推進による新事業創出におけるMOT(技術経営)の重要性
15:50 ～プロジェクトマネジメント型MOT実践事例～

株式会社アイさぼーと
取締役 スクール事業部長 松本 毅

企業の価値を高めるためには、技術資産から如何にキャッシュフローを生み出すかが重要です。その為には、新事業開発の構想力や新製品・新技術の構想力を持つ研究者・技術者育成が大変重要であり、「技術を戦略的にマネジメント出来る」戦略思考能力と「プロジェクトを成功に導くプロジェクトマネジメント型リーダーシップ」能力を高めることが重要です。

大阪ガスの子会社(株)アイさぼーとでは、「経営の出来る技術者」の育成を目指し「MOTスクール」・「個別企業にカスタマイズしたMOT研修」などを核とした体系的・実践的MOT教育事業を展開しています。

今回、その特徴と成果について紹介いたします。

【講師略歴】1981年4月 大阪ガス株式会社 入社。1981-1983 年超微粒子研究及び凍結粉碎機の開発、受託粉砕ビジネス立ち上げに従事。1983年から薄膜センサーの研究開発に従事。2003年4月(株)アイさぼーと MOT スクール事業部長に就任。2006年4月大阪工業大学工学部技術マネジメント学科客員教授に兼務就任。

ITトラック

IT-1 IT事業におけるマルチプロジェクトマネジメント(MPM)
13:10 ～同時併行独立プロジェクトのマネジメントプロセスを考える～

株式会社富士通関西システムズ 山口 健一
データプロセス株式会社 東 秀和

同時併行する独立した複数のプロジェクトを効率的に運営し組織全体の収益性を向上させるためには、全社横断的なプロジェクト推進を行うためのプロセス標準の確立が必要である。今回ご紹介するプロセス標準(IT-MPM第1弾)による期待効果は以下の通り。

- 標準化・文書化された運営基準に則ることにより内部統制が行われ、事業の健全性を確保し、リスクの最小化を図れる。
- 進捗状況やコストが定量的に管理され、ロスの発見や事前の問題抽出による原価の低減を図ることができる。
- 標準プロセスを通して技術やノウハウの蓄積が行われ、それが伝播・伝承され、人材の成長を図れる。人材が成長することでプロジェクトの成功率が高まる。

【講師略歴】山口健一：富士通関西システムズにて商社・卸売・食品製造業向け業務システム構築プロジェクトのプロジェクトマネジャーを担当。PMP®。東 秀和：IT技術者としてパッケージソフトウェア開発、映像配信、e-learningシステム構築を経験。現在は業務基幹システムのプロジェクトマネジャーを担当。PMP®, PMS, MCDBA

IT-2 CMMI®によるプロジェクト管理のプロセス改善と
14:30 組織の成熟度の向上

オムロン株式会社 技術本部企画室 ソフトウェア革新グループ
専門職技師 赤松 康至

【狙い】オムロンでは昨今国内で広く普及しているCMMI®をベースにしたプロセス改善に取り組んでいる。本セッションでは、CMMI®の最近の動向とCMMI®がどのように活用されているのか、その開発設計組織での活用の実際とプロジェクト管理のプロセス改善の事例紹介をする。合わせて、プロセス改善活動から得た教訓について解説する。【内容】①CMMI®とは、②CMMIとプロセス改善との関係、プロジェクト管理との関係、③弊社におけるプロセス改善活動、プロジェクト管理の事例紹介、④CMMI®をベースとしたプロセス改善における教訓

【受講をお勧めする方】①開発部門の管理者または設計担当者、②プロセス改善担当者、③CMMI®にご興味のある方

【講師略歴】1987年 米国 Loyola Marymount University, 科学・工学部 コンピュータサイエンス科と数学科 卒業。1988年 立石電機株式会社(現オムロン株式会社)入社。技術本部に配属し、Unix上の組込みソフト開発環境開発に従事。1998年 社内のソフトウェアプロセス改善の普及に従事。現在に至る。CMU SEI公認 SCAMPI(SM) A Lead Appraiser, SCAMPI(SM) B&C Team Leader, CMMI® Instructor

IT-3 医療現場におけるITプロジェクトマネジメントと
15:50 チーム育成

神戸市立中央市民病院
医療情報部・医療情報研究チーム 宮原 勅治

病院・医療現場には様々な職種があるため、多種多様なITニーズが発生する。しかし、医療という高い専門性と閉鎖的な態度が、これまでの医療現場のITプロジェクトを困難なものにしていた。

当院では病院職員に情報処理教育を施し、医療情報技師資格を取得した医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、事務職員ら30名を、医療現場にプロジェクトチームとして編成し、さらに実践に必要なコンピテンシー開発を行いながら、4年後に移転を控える新病院の医療情報システム開発を始め、院内の様々なITプロジェクトを推進している。

我々の、コンピテンシー開発・チーム育成を含めた、病院ITプロジェクトへの取り組みを紹介する。

【講師略歴】平成5年京都大学大学院医学研究科博士課程修了。京都大学医学部腫瘍外科学講座助手、静岡市立病院外科医長、大津市民病院外科医長を経て、平成12年より神戸市立中央市民病院外科医長。平成15年より、同院医療情報部・医療情報研究チーム・チームリーダー。医学博士。PMP。日本医療情報学会評議員・医療情報技師。